

## 2 重奏の心構え・練習方法

### 目的

この練習はアンサンブル（合奏）に興味のある方だけでなく、独奏に重点を置く方の更なる上達のために提案させていただきます。

初心者には音符の長さの違いを体感してもらう学習用としても使いますが、この資料は主にある程度演奏経験を積んだ方のためのものです。

### 心構え

重奏はキャッチボールのようなものです。

自分一人ではできませんし、お互いのペースを合わせ演奏しなければいけません。

思いやりを持って相手と一緒に曲を仕上げていきましょう。

演奏技術はある程度必要ですが、それよりも拍をきちんと数えられるか、相手の音を聞けるかそういった技術が必要になってきます。

自分の音だけでなく、相手の音も聞くためには余裕が必要です。

自分のパートを弾くのに必死になっている状態を早く逸脱できるよう、家でしっかり練習しておきましょう。

※レッスンでは初見の練習や効率的な運指を考える練習も兼ねるので、あまり練習しなくても大丈夫です。

いつもは楽譜に小節番号を書いています。今回ご用意した楽譜はそれがありません。

自分で小節番号を書く癖をつけて欲しいからです。

合奏では「何小節目からもう一度合わせてみよう」という事があります。

そんな時にパッと目的の小節を探せるように弾く前にまず小節番号を書いてください。

また、合わせるのが難しい箇所は自分のパートだけでなく相手のパートも練習し、音の流れを理解しましょう。相手が何の音を弾いた時、自分がこの音を弾くと理解していると合わせやすいです。

### 練習方法

○きらきらぼし 1st. (呼び方：ファースト・1パート)

1.アインザッツ（開始の合図）の練習

最初に小さく首を下げます。

その後、静かに息を吸いながら小さく首を上げ 2nd の人に開始のタイミングとテンポを伝えましょう。

(動画参照)

2.単音のメロディーはアポヤンドで弾きましょう。

3.相手のパートも練習し、音の流れを把握しておく。

○きらきらぼし 2nd. (呼び方：セカンド・2パート)

1.1st.のアインザッツを見逃さないように最初の音を押さえ、弾く準備をしたら 1st.を見る。

2.音符、休符を正しい長さでとる練習。

特に休符の長さを正しく数えるのが難しいです。

メトロノームを使い、イチニイサンシイと表拍だけでなく裏拍も数えるようにしましょう。

3.休符では弦を押さえている左指を浮かせる、右指を弦に置くことで音を消す「消音」という作業をしなければいけません。

○指の独立の練習 1st.

- ・アインザッツの練習

2nd.の1拍目が16分休符と入りにくいので1st.の合図で上手く拍の長さを伝えましょう。

○指の独立の練習 2nd.

1st.の合図で16分音符の長さを計り、1拍目の16分休符とその後の16分音符の長さを拍にしっかり合わせましょう。

○コンドルは飛んでいく 1st.

- ・この曲は運指を書いていません。曲にあった最適な運指を考えられる練習をしましょう。

運指を決める時のコツを4つ覚えてみてください。

1.1つのフレーズを弾くとき、可能ならなるべく最後までポジション移動をしない。

2.どうしてもポジション移動が必要な時は、同じ指をずらしてポジション移動する。

例) 1弦3フレット「ソ」を3で押さえ弾き、次に3の指を1弦5フレット「ラ」にずらす。

3.ビブラートをかけられる運指にする。

例) 1弦1フレット「ファ」より2弦6フレットの「ファ」の方がビブラートをかけやすい。

4.同じ音でも開放弦よりも押弦して出す音の方が太く、良い音色を出しやすい。

フレーズの区切りは演奏者に任されることが多いです。

時に、下の楽譜のようにフレーズが指定されることもあります。

今回は私がこの曲のメロディーをABCDEの5つのフレーズに分けました。

運指を決める時のコツや動画を参考にして、自分で運指を考えてみてください。

- ・単旋律を弾く人はなるべく太く大きい音を出しやすいアポヤンド奏法で演奏しましょう。
- ・最初はお休みです。

この休符で拍をしっかりと数えないと、最初の音③ラを正しいタイミングで弾けません。  
メトロノームを使い、裏拍までしっかりと数え最初の音を出す準備をしましょう。

- ・ 6小節目の8分休符をしっかりと取らないと、ここで2ndとずれてしまう人が多いです。  
しっかりと休符を数えましょう。

○コンドルは飛んでいく 2nd.

- ・ 3小節目は1st.が2拍目裏「ミ」を弾くときに「ラ」を弾かなければいけません。  
しっかりと拍を数えましょう。

○大きな古時計 1st.

- ・ この曲は4拍目から始まるアフタクトの曲です。  
この場合、アインザッツの首を小さく下げた後、息を吸いながら小さく首を上げる瞬間に第1音を弾き始めます
- ・ この曲はフレーズを表記していません。  
知っている曲だと思うので、皆さんでフレーズの区切りと運指を考えてみてください。
- ・ 8小節目は2nd.にrit.リタルダンド（だんだん遅くなる）とフェルマータ（その音を伸ばす時間を増やす）があります。  
どれだけ音を伸ばすかは2nd.の人が決めるので、次の音を弾く準備をしつつ、しっかりと2nd.の人を見て次の音を弾く瞬間を見極めましょう。
- ・ 9小節目は4分休符後音がずれやすいです。  
1st.の人がブレス（息を吸う）をして3拍目と10小節目1拍目の入りのタイミングを伝えましょう。

○大きな古時計 2nd.

- ・ 8小節目のrit.リタルダンド（だんだん遅くなる）とフェルマータ（その音を伸ばす時間を増やす）の表現が難しいと思います。  
しっかりとイメージして弾きましょう。  
また、その後の開始の合図は2nd.のブレスで始まります。  
フェルマータの「シ」を弾いたら、次の音の準備をしつつ1st.を見てブレスをしましょう。
- ・ その後の9小節目は4分休符後タイミングをとるためしっかりと1st.のブレスを感じましょう。